

高知県大月町柏島のフィールドワーク

ーフィールド実習Ⅱの報告ー

橋尾直和

1. はじめに

本報告は、2007年9月28日から30日にかけて実施された、「フィールド実習Ⅱ」の一環として実施したフィールドワークの調査報告である。調査は、参加した学生たちが3グループに分かれて、3人のインフォーマント（資料提供者）にそれぞれつき、調査票に基づいて聞き取りをする直接面接調査法を採用した。本調査は、現在「四万十かいどう」推進協議会が行っている「四万十かいどう」風土調査ともタイアップしており、交通費・宿泊費等についての補助を受けた。インフォーマントは、浜野三代さん（1942年（昭和17年）生）、中島柏子さん（1943年（昭和18年））、島本きみさん（1948年（昭和23年））である。また、大堀遊亀さん（1936年（昭和11年））にも、貴重な情報を提供していただいた。

2. 調査地点の概要

高知県大月町柏島は、四国の西南端に位置し、周囲4kmで面積が1平方キロメートルに満たない島である。近海での漁業や養殖が細々と行われている。その周辺の海は、温帯にありながら熱帯からの黒潮が流れ込み、水温も平年で最低17℃台と比較的暖かな海である。温帯と熱帯の生きものが共存し、約884種を超える魚類や89種を超える造礁性珊瑚、2mを超えるトゲトサカなどの素晴らしい景観が広がっている。

大月町沿岸は、黒潮が接岸する時は、透明・透視度が50mを超える時があり、平均して高い透明度の海域と言える。高知市から約180kmの道のりであるが、釣り客やダイバーで休日とはとても賑わっている。

大月町の人口は6,570人（男3,111・女3,459）、世帯数は2,894世帯で、柏島の人口は504人（男239・女265）、世帯数は213世帯である。

3. 「四万十かいどう」風土調査について

「四万十かいどう」は、10市町村にまたがるエリアにだるま夕日やホエールウォッチングなど豊かな観光資源を持ち、「四万十かいどう推進協議会」（会長、村上雅博・高知工科大学教授）のメンバーで報告者である橋尾（副会長・本学准教授）らが、「四万十かいどう」風土調査を進めてきた。去る2007年11月28日、国土交通省が提唱する「日本風景街道」に安芸市の「土居廓中（どいかちゅう）」と県西南部地域周辺の「四万十かいどう」が登録され、登録証の交付式が県庁で開かれた。日本風景街道とは、道を舞台に自然や歴史、文化などその土地の資源を活かして、地域の活性化や観光の振興

を図る取り組みである。四国では、「四国風景街道協議会」が2007年8月に設立され、風景街道の募集と審議を行ってきた。

「土居廓中」は、江戸時代の武家屋敷が残る町並みである。地域住民で作る「歴史と文化にふれる歩くみちづくり懇話会」（会長、横山彰夫・土居公民館長）が、ウォーキングガイドマップ作りなどの活動を続けている。

「四万十かいどう」とは、

- (1) アカメに会える道（四万十市～旧十和村・旧西土佐村経由～四万十市ルート）、
 - (2) だるま夕日が見える道（四万十市～土佐清水市・大月町・宿毛市経由～四万十市ルート）、
 - (3) クジラに会える道（黒潮町～四万十町（旧大正町経由）～四万十市ルート、
 - (4) サンショウウオに会える道（四万十川源流～梶原町から旧大野見村ルート）
- の4ルートを目指す。

「四万十かいどう」風土調査は、「日本風景街道」のコンセプトである自然、歴史、文化、風景などをテーマとして「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指した、美しい街道空間を形成することである。また、「四万十・南いよ風景かいどう」のコンセプトである「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流と地域の活性化を目指し、日本最後の清流"四万十川"と足摺・宇和海の自然・歴史・文化・風景などをテーマに、四国・西南地域の美しい街道づくりに取り組むことなどをベースとした調査を「四万十かいどう」に展開し、地域の文化資源の再発見と情報発信を目指すものである。

これまでに、(1)2006年9月に「アカメに会える道」風土調査（旧西土佐村）、(2)2007年9月に「だるま夕日が見える道」風土調査（大月町柏島）（「花・人・土佐・であい博」に参加）を行ってきた。今後は、(3)2008年9月に「サンショウウオに会える道」風土調査（梶原町）、(4)2009年9月に「クジラに会える道」風土調査（黒潮町）を行う予定である。

4. 調査内容

「フィールド実習Ⅱ」のフィールドワークの内容は、以下の通りである。

9月28日（金）

- ・道の駅ふれあいパーク大月視察
- ・コスモス祭り会場視察（牧野富太郎ゆかりのアシズリザクラ見学）
- ・「四万十かいどう」風土調査

9月29日（土）

- ・大月町の現況についての説明（大月町役場水産商工振興課長：中平定男氏）
- ・「四万十かいどう」風土調査

9月30日（日）

- ・「四万十かいどう」風土調査
- ・黒潮実感センターで柏島の環境についての講話（センター長：神田優氏）
- ・シュノーケリング体験

- ・宿毛市郷土資料館見学
- ・国の重要文化財浜田の泊り屋見学
- ・四国八十八箇所第39番札所の赤亀山延光寺見学

具体的な内容は、①民話、②天候に関することば、③挨拶のことば、④食生活のことば、⑤川の名称・地名、⑥祭りの名称、⑦民具の方言呼称などの「文化環境と人びとの暮らし」といった統一テーマで聞き取りを行った後、報告書にまとめて発行・配布する。地元の方の残しておきたい風土・風景をインタビューし、デジタルカメラで風景を撮影し、学生が収録した地元の皆さんの熱いメッセージを発信することである。この内容を、「四万十・南いよ風景かいどう」のホームページの中の「四万十かいどう」風土調査のホームページ欄に掲載していく予定である。



写真1 コスモス祭り会場視察



写真2 調査風景



写真3 黒潮実感センターにて



写真4 浜田の泊り屋見学

(はしお なおかず・本学准教授)